

苫前町 観光ビジョン

令和 8 年度 ~ 令和 12 年度



令和 8 年 4 月

北海道 苫前町

目 次

第1章 観光振興ビジョン策定の趣旨と背景	
1 国内の情勢	1
2 道内の情勢	1
3 苫前町の現状と課題	2
第2章 苫前町観光ビジョンの基本的な考え方	
1 観光ビジョンの位置づけ	2
2 観光ビジョンの期間	3
第3章 苫前町が有する観光施設及び観光資源の現状と課題	
1 観光施設の現状と課題	3
(1) 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）	3
(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ	4
(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場	5
(4) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園	5
(5) ななかまどの館	6
(6) 三毛別震事件復元地	6
(7) 苫前町郷土資料館及び考古資料館	7
2 観光資源の現状と課題	8
(1) 上平グリーンヒルウインドファーム	8
(2) 各種イベントの開催	8
① 苫前町風車まつり	
② 古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り	
③ 苫前・古丹別ふるさと祭り	
④ 苫前町凧あげ大会	
(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売	9
(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」	10
(5) 観光客誘導看板	10
(6) 観光PR情報提供	11
(7) 留萌管内における観光事業連携	12
第4章 観光振興施策の推進	
1 第6次総合振興計画（令和8年度～令和17年度）	13
2 観光施設の取り組み	15
(1) 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）	
(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ	

(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場	
(4) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園	
(5) ななかまどの館	
(6) 三毛別巖事件復元地	
(7) 苫前町郷土資料館及び考古資料館	
3 観光資源の取り組み	16
(1) 上平グリーンヒルウインドファーム	
(2) 各種イベントの開催	
(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売	
(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」	
(5) 観光客誘導看板	
4 観光PR情報提供	18
5 留萌管内における観光事業連携	18
6 観光プロモーションの取り組みについて	18
7 観光推進体制（町内各産業団体との連携含む）について	18
〈資料編〉	20

第1章 観光ビジョン策定の趣旨と背景

1 国内の情勢

・外国人旅行者の動向

2024年の訪日外国人旅行者数は、コロナ前の2019年比で15.6%増となる過去最高の3,687万人を記録しました。この勢いは2025年も続いており、1~9月だけで約3,165万人に達するなど、過去最速で3,000万人を突破しています。2024年の旅行消費額も8兆1,257億円（2019年比68.8%増）と過去最高を更新し、1人当たりの支出も22万7,242円（同43.3%増）へ増加しました。費目別では宿泊費が約2.7兆円（同92.9%増）と急増した一方、買い物代の構成比が低下しており、「モノ消費」から「コト消費」への移行が鮮明です。国別では韓国が882万人で最多となり、次いで中国（698万人）、台湾（604万人）と続きますが、中国は2019年比で27.2%減といまだ回復途上にあります。政府は2030年までに訪日客6,000万人、消費額15兆円という目標を掲げており、その実現には空港や宿泊施設の受入体制強化が課題とされています。

・日本人旅行者の動向

一方、2024年の日本人による国内延べ旅行者数は約5億4,000万人と、2019年比で8.2%減（約9割の水準）にとどまり、海外への出国者数も1,301万人（同35.2%減）と、円安等を背景に完全な回復には至っていません。しかし、国内旅行消費額は25.1兆円（2019年比14.5%増）と過去最高を記録しており、旅行市場全体の7割超を支えています。この背景には「量から質」への変化があり、実際に2024年は旅行者の約6割が「体験重視」を志向するなど、2019年比で約15ポイント上昇しました。ただし、急速な少子高齢化により70代以上の旅行参加が減少している現状もあり、今後はバリアフリー対応や平日旅行の推進など、人口減少社会を見据えた対策が求められています。

2 道内の情勢

北海道は、四季を彩る雄大な自然や温泉、豊富な食、さらには、アウトドアスポーツなどの様々な体験メニューなど、多彩な観光資源があり、これまでも国内外を問わず多くの観光客が訪れており、観光客がもたらす消費は、宿泊業・運輸業・旅行業など観光に直接関わる産業だけにとどまらず、商工業・製造業・農林水産業をはじめ地域の様々な産業へ幅広く波及し、観光が地域経済を牽引する総合産業として、北海道経済の活性化に大きく貢献することが期待されることから、北海道は観光振興に関する基本理念や道の施策の基本となる事項などを定めた「北海道観光のくにつくり条例」に基づき、道民や観光事業者、観光関係団体のほか、北海道をはじめとする行政機関など観光にかかわるすべての関係者が、連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するため、「北海道観光のくにつくり行動計画」を策定しています。

北海道の観光入込客数は、2017年度の過去最高記録（5,610万人）からコロナ禍による大幅な落ち込みを経て回復基調にあり、2024年度の総数は前年度比3.9%増の約4,964万人となりました。しかし、コロナ前の2018年度と比較すると依然として10.1%

減の水準にとどまっています。

国内客の内訳をみると、道内客は約4,154万人（前年度比2.9%増）と微増しましたが、物価や宿泊費の高騰を背景に宿泊客が減少しました。一方、道外客は527万（同4.4%増）となり、緩やかな増加傾向を示しています。

これに対しインバウンド（外国人客）は、円安や国際線の拡充、北海道人気の高まりにより、前年度比20.7%増の約283万人と大きく伸長し、過去2番目の高水準を記録しています。国・地域別では韓国（84万人）、台湾（60万人）が上位を占め、中国（46万人）も前年比7割増と急回復しましたが、コロナ前の水準への完全な回復には至っていません。

3 苫前町の現状と課題

近年の社会情勢は、急速な少子高齢化や厳しい財政状況、雇用環境の変化などにより大きく揺れ動いています。加えて、多発する大規模災害は、我々の危機管理意識を変えたのみならず、生活様式そのものの見直しを迫る契機となりました。

こうした時代の変化に対応するため、本町では「第6次苫前町総合振興計画」を策定し、町のあるべき姿と進むべき方向性を示しています。中でも観光振興は、宿泊・飲食・サービス業のみならず、農林水産業など他産業への波及効果が高い総合産業として、地域経済を支える重要な柱です。

現在、本町には「風のまち」としての景観や、道の駅を兼ねている温泉宿泊施設「とままえ温泉ふわっと」、更には豊富な食資源など、優れた観光資源が存在します。これらが連携し、更に新たな魅力を付加して「苫前ブランド」として確立し、戦略的に発信していくことが求められています。

さらには、町民のホスピタリティ向上に努めるとともに、近隣自治体や北海道全体と連携した広域的な集客を図る必要があります。これまでの通過型の観光から、地域の食や体験を楽しむ「質の高い滞在型観光」へと転換し、滞在時間の延長と消費拡大を目指さなければなりません。

観光による交流人口の拡大を、地域経済の活性化、さらには移住定住の促進へとつなげていくために、受入体制の強化と誘致宣伝の推進に加え、これらを包括する新たな「観光振興ビジョン」をここに構築します。

第2章 苫前町観光ビジョンの基本的な考え方

1 観光ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第6次苫前町総合振興計画の基本構想である『自然と産業、人のつながりが調和し、営みが世代を超えて受け継がれるまち』の中にある「産業の活力を高め、働く場とにぎわいを創出するまち」における観光の振興分野政策並びに、「苫前町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標を達成するための観光振興計画として位置づけるものとします。

2 観光ビジョンの期間

本ビジョンの期間は、2026年度から2030年度までの5ヶ年とします。

第3章 苫前町が有する観光施設及び観光資源の現状と課題

1 観光施設の現状と課題

(1) 新日本海地域交流センター

(とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」)

苫前町新日本海地域交流センターは、シーフロンパーク拠点施設基本構想（平成10年2月）に基づき平成12年に完成し、同年5月にオープンしています。

開設当初の運営管理は第三セクターである株式会社苫前町振興公社への管理委託にて実施し、温泉を利用した入浴・宿泊・食事サービスの提供を行っていましたが、住民サービスの向上と管理運営経費の削減を図るため、平成18年度より指定管理者制度を導入したところです。



平成21年7月からは、株式会社苫前町振興公社の指定管理解除に伴い、住民・利用者ニーズの多様化に即し、民間事業者の有するノウハウを施設管理に活用すべく、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が指定管理者として管理運営を行っています。

また、当施設は平成18年8月に道の駅「風Wとままえ」として登録し、同年11月より道の駅としての供用を開始し、24時間トイレの開放や道の駅情報の発信を行っています。

さらに、本施設は建設から20年以上が経過する中、各種設備の劣化による問題が発生していたことから、令和3年度から4年度にかけ、大規模改修工事を実施しています。主な改修内容として、宿泊室のシングル対応における一部個室化、レストランでは椅子・テーブルの入替にて高齢者対応の仕様に一新、老朽化した温泉設備も更新、防災施設の機能として非常用電源装置の拡充も行い、災害時にも対応可能な施設となっています。

また、道の駅機能の拡充として直売所の設置とともに、24時間トイレ、妊婦向け屋根付き駐車場、授乳室など新たな子育て支援環境を整え、併せて、留萌開発建設部のご協力により、「道の駅情報提供システム」のバージョンアップ、紙おむつや液体ミルクの子育て応援自動販売機の設置を行っています。

宿泊者数は、平成12年開設時から5年間は1万人を超えていましたが、平成24年度以降は8千人台で推移し、新型コロナウイルス感染症の影響等により一時3千人台まで落ち込みましたが、令和6年度では9千人台まで回復しています。

日帰温泉利用者は、平成23年度には年間パスポート利用券などの取り組みにより、利用客増となり8万人を超えましたが、その大半は地元利用客であり、人口減少とともに徐々に減少し、平成30年度では6万9千人台、新型コロナウイルス感染症等の影響により2万人台まで落ち込みましたが、令和6年度では6万5千人まで回復しています。また、レストラン利用客は、平成26年度以降5万9千人台を維持し、平成30年度では6万4千人台、新型コロナウイルス感染症の影響等により一時1万9千人まで落ち込みましたが、令和6年度では6万1千人と回復しています。

本施設は、苫前町の観光振興の拠点であり、宿泊・温泉・食事を含む観光サービス提供並びに地元住民の温泉入浴や食事を伴う憩いの場としても必要不可欠な施設となっています。

(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチは、苫前町が進める大型地域プロジェクト「シーフロンパークとままえ整備構想」に基づき、他町村の海水浴場との差別化を図るため、中国海南島から白砂1,000立米を輸入し、これまでの海水浴場をリニューアルにより平成8年にオープンしたところです。



国外から輸入した白砂が好評を博し、平成8年リニューアル当時は5万人の入り込み数であったものの、その後は減少し、平成23年の1万4千人を最後に1万人台を割り、その後も観光客ニーズの多様化により減少。海水浴客は天候に大きく左右されるものの現在では6千人前後にて推移しており、平成30年度以降は5千人をほぼ下回っており、令和5年度、令和6年度では約4千8百人となっています。

ホワイトビーチの開設期間は、例年7月10日前後から8月20日前後の40日間程度となっており、有料シャワー設備を完備し、開設期間の管理運営を苫前町高齢者事業団へ委託、遊泳事故対策としてライフセーバーを常駐させています。

また、飲食提供サービスとしては、売店及び管理棟店舗「ココカピウ」の飲食店にて地場産品メニューやファーストフードが提供されています。

しかしながら、観光交流人口の減少や利用者ニーズの変化により、入り込み数は、今後さらに減少することが想定されるため、海水浴だけではなく、フォトスポットとしての活用や、「浜辺遊び」をキーワードとする砂浜を利用した体験メニューの構築、そして、魅力ある施設として利便性や安全性を向上させる必要があります。

施設については建設から30年が経過し、施設設備について老朽化が著しく、抜本的な改修が必要な状況となっていることから、令和8年度に改修する予定となっています。

(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場は、「シーフロンパークとままえ整備構想」に基づき、ホワイトビーチオープンと同時期の平成8年7月に開設し、道内外からの新規入り込み客の増加が見られ、札幌圏及び旭川圏を中心とした都市部の愛好者が家族連れで、ホワイトビーチやとままえ温泉ふわたの利用と連動した滞在型観光の提供を可能としています。



設備は、流し台及び電源を完備したオートキャンプサイトAが21区画、車両乗り入れ区画のみを配置したオートキャンプサイトBが50区画、テント設営のみのフリーテントサイト10区画を有し、管理棟には有料のシャワー及びコインランドリー（洗濯機・乾燥機）設備を完備しています。

また、キャンプ場設備は、オートキャンプサイトAの炊事設備及び庭園灯の更新を平成30年度にて更新したところであり、さらにトイレ設備については洋式化（洗浄機能付）ニーズに対応するため、設備更新をしました。

利用者は平成12年には1万人を超えましたが、その後徐々に減少し、年間4千人前後で推移し、平成30年には施設改修による利用制限や繁忙期（7月～8月）の天候不順により3千5百人を下回りました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンプ需要が高まり、令和5年では4千7百人、令和6年では5千6百人と増加傾向となっています。しかし、建設から30年が経過し、施設設備について老朽化が著しく、抜本的な改修が必要な状況となっていることから、令和8年度に改修する予定となっています。

(4) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

未来港公園は、苫前地区漁港環境整備事業により平成17年度に完成し、供用開始されており、管理棟（トイレ・炊事場）や多目的広場、交流広場、ビーチバレー広場、親水広場を有し、乗用車196台・バス5台分の駐車場を確保したイベント交流広場として活用されています。



イベント開催については、開設時において第3回北海道風車まつりが開催され、以降毎年継続開催されており、海水浴場（開設）期間においては、多目的交流施設として、キャン

プ利用ニーズにも応えるため、キャンプ利用者の受入を行っています。

令和7年度から苫前町風車まつりに改称したイベントは22回を数え、現在8,000人の入り込み数となっています。駐車場の不足から交流広場や緑地スペースの一部開放を行っていますが、十分な駐車スペースが確保できず、来場者の入れ替わりを

持つ車両の待機状態が発生することもあり、イベント開催時の駐車場確保が今後の課題の一つとなっています。また、施設については建設から20年が経過し、施設設備について老朽化が著しく、抜本的な改修が必要な状況となっていることから、令和8年度に改修する予定となっています。

(5) ななかまどの館

ななかまどの館は、古丹別地区の日帰り公衆浴場並びにレク施設として昭和53年に建設されました。当初の名称は「古丹別住民センター」として運営していましたが、平成3年に宿泊棟を増設し、「苫前町ななかまどの館」となりました。

運営管理は、開設当初は民間委託で実施し、住民サービスの向上と管理運営経費の削減を図るため、平成18年度より指定管理者制度を導入したところであり、民間事業者の有するノウハウを施設管理に活用すべく、(有)大川商店が指定管理者として管理運営を行っています。

平成30年には、風呂なし世帯の減少に伴い、公衆浴場としての役目を終え、古丹別地区唯一の宿泊施設として、スポーツ合宿や子ども会行事、宿泊を伴う会議、仕事、工事での宿泊など活用は多岐に渡っており、古丹別地区の宿泊拠点施設として欠かせない施設となっています。

宿泊者数は、平成21年度以降は1～2千人台で推移し、令和2年から4～5千人台となっています。

利用者からの意見として、「夏場エアコンがなく寝れない」、「大浴場のみで個室シャワーがない」「施設が古い」などの意見があり、魅力ある施設として利用者の利便性及び安全性及び快適性を向上させるとともに、スポーツ合宿や子ども会行事、宿泊を伴う会議での利用、宿泊者のリピート率向上と本地域への移住定住促進への足掛かりとなる施設として再構築するため、令和8年度から施設設備を改修する予定となっています。また、当施設について三毛別熊事件復元地の中継地点として機能を充実させ、各観光施設を有機的に連携させる事が重要であると考えています。



(6) 三毛別熊事件復元地

大正4年(1915年)12月、町内三溪で発生した熊事件の史実をもとに復元したもので、同地は古丹別市街地から約19キロメートルの山奥に位置し、道道苫前小平線の延長上に配置されています。

平成2年の復元住居関係に続き、翌年、熊のモニュメントを設置したことにより、道内外からの



観光客がグループなどで訪れ、開拓時の様子や野生生物の生息している雰囲気を感じて空間として人気が高いことが伺えたが、来場者数の集約（確認）方法が見当たらず把握していなかったが、平成30年度より記帳名簿を備え付けたところ約2,000人の来場者を数え、記帳いただけない方の推計（3分の1）も含め、約3,000人程度の来場者はあるものと思われる。

今後とも、苫前町の開拓の歴史の伝承と犠牲となった方々への慰霊と感謝の気持ちを後生に伝える施設として、復元住居及び罌モニュメント等の維持管理していくことが必要であります。

（7）苫前町郷土資料館及び考古資料館



苫前町郷土資料館は、昭和3年に建設された旧役場庁舎で、当時の建築物としては非常にモダンな洋風施設であったことから、この施設を保存・展示及び郷土資料館としての利活用を図るため改築を行い、昭和59年3月にオープンしたところであり、主な展示テーマは獣害史上最大と言われる「三毛別罌事件」をメインテーマに、「とままえの自然」「とままえの農林漁業」「とままえの

海」など開拓当時から苫前町発展に関わる生活・生産用具などが展示されています。

また、考古資料館では、昭和61年度～昭和62年度において擦文時代の「香川3線遺跡」「香川6線遺跡」の発掘調査が行われ、概ね2万点にのぼる貴重な資料が出土したことから、これらの資料とともに、旧石器文化時代・縄文文化期・続縄文文化期・擦文文化期（オホーツク文化期）・アイヌ文化期までの解説展示を行っています。

入館者数は、平成21年には3千人ほどでありましたが、平成24年度以降4千人を上回り、平成25年度及び平成28年度には5千人を超えた状況でありましたが、令和5年度、6年度ともに5千人弱となっています。

本資料館には、苫前町有形文化財にも指定されている大型の木櫃「修羅」や「須恵器」、苫前町の宝に指定されている日本最大級の罌の剥製「北海太郎」など、貴重な展示物が常設されています。

なお、北海道有形文化財に指定されている木造十一面観音立像は、役場にて専用ケースに収蔵されているものの、展示環境の確保の課題から常設展は行われていない状況にあります。4年に1度役場ロビーにて展示会を開催しています。

2 観光資源の現状と課題

(1) 上平グリーンヒルウインドファーム

上平共同利用模範牧場の敷地内において、民間2社による大型風力発電機について、令和5年度にリプレースが完了しました。ユーラスエナジー5基、電源開発8基の計13基の大型風車が立ち並び全国風力発電の先進地としてこれまで多くの視察を受け入れるとともに、牧草地である緑の大地に白色の風車群が聳え立つロケーションは、芸能アイドルのプロモーションビデオ撮影等に活用され、周辺道路では写真撮影が行われるなど多くの観光客を魅了しています。



しかしながら、上平共同利用模範牧場及び風力発電施設は稼働中の設備であり、放牧牛や自然環境への配慮が必要であることから、立ち入り制限区域や安全表示を設置しています。

(2) 各種イベントの開催

① 苫前町風車まつり

苫前町風車まつりは、風車で「風かおるまち」のイメージを活かし、花風車を会場に設置するなど、町民参加型のイベントとして平成16年度より開催しています。

平成21年度からは、地元甘エビを活用したエビ籠オーナーイベントも盛り込まれ、風車まつりのメインイベントとして定着し、全道・全国的な知名度を誇るまでになっていました。



しかしながら、近年の甘えびの不漁によりエビ籠オーナーイベントの中止を余儀なくされています。

また、知名度のある演歌歌手の招聘や平成29年度からは苫前町イメージキャラクターの活用、重機体験、港湾業務艇による港見学会や風力発電ブースなど、子どもから高齢者まで幅広いニーズに対応したイベントとして、町内外から8千人程度の入り込み数となっています。

特産品を含む販売ブースは、令和7年度は、飲食のみが5店舗、飲食・物販が4店舗、物販のみが3件、キッチンカーが7件となっており、19店舗となっています。

会場は、とままえ夕陽ヶ丘未来港公園において開催し、駐車場は一部緑地も開放していますが、常に満車状態で有り、会場周辺には適当なスペースを確保できない状況にあり、ホワイトビーチ駐車場やふわっと駐車場を活用しながら運用しています。

② 古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り

古丹別緑ヶ丘公園さくらまつりは、開道100年、苫前町制施行20年を記念して昭和43年に整備された古丹別緑ヶ丘公園において、昭和46年から開催され、先人から受け継いだ桜の名勝としての価値を再確認し、次の世代へ継承するとともに、町内会を中心とした各種団体の参画により、地域住民による手作りの「ふるさと苫前」を思い描かれるイベントであります。

また、イベント当日には管内各種団体や町の関係機関との交流の場ともなり、500人程度の入り込み数となっているとともに、イベント期間中の公園入り込み数は1,000人を数えています。

③ 苫前・古丹別ふるさと祭り

苫前・古丹別両地区における「ふるさと祭り」は、帰省者が多く訪れるお盆時期の「ふるさと祭り」を行うことで、盆踊りや各種イベント、特産品等の露店飲食など、その地域性を活かした交流の場において、地域の連帯感や相互理解を深め、町外転出者との再会も含め、ふるさと「とままえ」の再認識ができる特別な祭りとして開催されています。

④ 苫前町凧あげ大会

苫前町凧あげ大会は、屋内に閉じこもりがちな冬期間において、時折強風を伴うやっかいな北風を利用し、屋外での凧あげを楽しもうと町内有志者の協力のもと昭和48年度より地域イベントとして開催され、町内の子どもたちや凧あげ愛好家たちに親しまれてきています。

また、平成4年度からは、その規模を全道に広げ、留萌管内や友好町三重県桑名市（長島町）からの参加により北海道凧あげ大会として開催し、凧あげ競技の他、特産品販売やステージショーを加えた苫前町の冬の風物詩として、広く知られてきたところであり、大小200基もの凧が一斉に舞い上がり、親子や児童生徒、職域団体等の300名程度の参加がありました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度～令和3年度は中止、令和4年度、5年度は苫前中学校にて開催していましたが、令和6年度からは物販も再開、とままえ温泉ふわっとに会場を戻して開催しています。苫前町凧あげ大会としては開催51回を数え、歴史ある大会となっています。

(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売

本町における特産品は、一次産業である農産物や海産物とその加工品が主体であり、農産物においては、米・小麦・豆類・メロン・ミニトマト・かぼちゃ・スイートコーンと多種にわたり、加工品としては、苫前町農協での潮風うどん、とままえ風あまぎけや(有)無限樹でのミニトマトジ



ユース、上田ファームでのかぼちや団子や甚佐（カボチャうどん）、InakaBLUE の RETAKO など徐々に特産品開発が進められてきている状況にあります。

一方、海産物においては、ホタテ・エビ・イカ・タコ・カレイ・ナマコ・ウニ・昆布など魚種等も豊富で有り、加工品としては北るもい漁業協同組合苫前支所や（株）丸や岡田商店、星野水産、瀬川水産などによる各種珍味



や糠にしん、身欠きニシン、塩麴にしん、味付け数の子、煮蛸、酢蛸がある他、苫前町商工会と山海幸にて商品化されたカスベのベーコンなどがあります。

本町の特産品は、海産物を中心とした高品質な冷凍・冷蔵食材が豊富であり、その鮮度や品質の高さは大きな強みとなっています。一方で、観光客が持ち帰りやすい常温土産品としての流通は限定的であることから、こうした強みを活かしつつ、常温での持ち帰りが可能な商品の開発が求められています。

このため、苫前ブランドの確立を図るとともに、苫前産食材を活用した特産品の開発及び販路拡大に向けた取組に対し、「苫前ブランド・6次産業化チャレンジ支援事業」の拡充を含め、継続的な支援が望まれます。また、道内都市部における特産品PRとして、観光協会を主体として「北海道のひだり上るもいフェア（札幌市）」や「北の恵みあさひかわ食べマルシェ（旭川市）」、「冬のJP01まつり in チカホ（札幌市）」への出店を行い、商工会や各企業等の協力をいただきながら、特産品の販売を実施しており、都市部来場者へ産地の思いをダイレクトに伝えることによる大きなPR効果と特産品の販路拡大に向けた貴重な場となっています。

（４）苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」

「くまだとまお」の活動は、苫前町のイメージPRを目的として、各種町内外の行事やイベント等に出動し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層との交流を図りながら、イベントの活性化に寄与するとともに、道内におけるイベントや特産品販売への参加を通じて、本町の認知度向上及びイメージアップに取り組んでいます。



これまでの活動により、SNSの活用や町内外イベントへの参加を通じて認知度は徐々に向上しているものの、更なるPRの強化により、苫前町の名称及びイメージ向上との相乗効果が期待されることから、今後は出動体制の強化やSNSを活用した情報発信の充実が必要であると考えます。

また、「くまだとまお」のPR推進にあたっては、キャラクターグッズの開発・展開を行うことで活動費の一部確保も期待できることから、子ども及びその保護者層を主なターゲットとした商品展開や、町内の観光資源（施設・特産品等）と連携したコラボ商品の開発について検討を進める必要があります。

(5) 観光客誘導看板

① 役場前熊（ひぐま）モニュメント

昭和63年（1988年）に三毛別熊事件を逆手にとり、町おこしのシンボルとして役場前の駐車場内に建設された。夏場の観光シーズンには、通行ライダーたちの目にとまる撮影ポイントとなっています。

この撮影ポイントを観光情報の発信機会と捉え、柱へ二次元バーコード(QRコード)を設置するなど、少しでも長く苫前町に滞在してもらう工夫が必要です。

② 観光案内等看板

町内における観光案内看板は、国道232・239号交差点（上平）、とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ駐車場等に設置されていますが、適宜、維持管理及び更新することが望まれます。

③ 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと）大型看板

平成22年6月北海道開発局の道路占用許可に基づき、字苫前473番地に大型看板の設置を行い、とままえ温泉ふわっとへの誘導を行っています。

④ ペアロード（三毛別熊事件復元地誘導）看板

三毛別熊事件復元地への誘導を図るため、国道239号線と道道1049号線の交点から三毛別熊事件復元地までの約19km区間において、残り15km（九重コミュニティセンター前）、残り10km（字三溪：大川敏雄宅手前）、残り5km（字三溪：立石宅前倉庫壁）、残り2km（字三溪：利用組合倉庫付近）において復元地誘導看板を設置していますが、経年劣化における維持補修または更新が必要です。

三毛別熊事件復元地の来場者は約3,000人程度と見込まれ、復元地は各種携帯通信機器電波エリア外の場所にあり、来場者への誘導看板は一定距離区間において必要であり、維持補修及び更新が必要な状況ではありますが、令和8年度道道力昼九重線携帯電話の不通区間解消により、来場者の利便性向上に資するものと考えます。

(6) 観光PR情報提供

本町におけるインターネットにおける観光情報の提供は、町のホームページにて各観光施設の紹介や各イベント時の広告、特産品販売店の紹介など掲載されていますが、十分な情報提供とは言いがたく掲載内容の見直しが必要な状況です。

また、観光PRサイトの活用において、留萌観光連盟による「るもい食楽歩」や日本観光振興協会による「観るナビ」や各種情報サイト等への情報提供により、きめ細かな情報を提供が行われているとともに、とままえ温泉ふわっとの道の駅への登録により、道の駅公式ページにて「風Wとままえ」として紹介されています。

パンフレット作成による情報提供では、苫前町観光協会にて、「苫前町観光ガイドブック」、「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場施設紹介パンフレット」、「三毛別熊事件

復元地紹介パンフレット」を作成し、窓口及び郵送、各種イベントでの配布や各観光施設へ配架しています。

各種インターネットサイトやパンフレットに観光情報を掲載する際は、常に最新の情報をいち早く発信し、本町の魅力がしっかり伝わるよう工夫を続けることが大切です。

また、観光客のニーズは多様であるため、インターネットだけに頼るのではなく、全国版の観光雑誌など、さまざまな媒体を活用した情報発信も必要です。さらに、あらゆる機会を活かして情報を発信するとともに、留萌振興局や管内の各市町村と連携し、多様なニーズに対応した効果的な情報発信を行うことが求められます。

(7) 留萌管内における観光事業連携

観光客の誘客には、本町単独での取り組みには限界があることから、留萌観光連盟の取り組みとしてのWEBサイト「るもい食楽歩」への観光情報提供及び更新を行うなど留萌観光連盟事業との連携・協力を図ります。

さらに、北海道宿泊税を活用した事業として、留萌振興局においては、地域と連携のもと、地域の実態やニーズに即した観光振興施策を展開し、地域社会及び地域経済の発展に資する取組を進めることとなっています。

具体的には、留萌管内において、交通手段別の旅行者動態調査及び分析、アウトドアコンテンツの開発やガイドの育成、さらにはサイクルルートの実証走行の実施が予定されています。

※観光施設入込数

施設名	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 0 1	R 0 2	R 0 3	R 0 4	R 0 5	R 0 6
とままえ温泉ふわっと計	155,346	156,284	151,406	155,662	159,791	126,183	117,839	53,734	165,076	175,818
宿泊者	8,835	9,168	8,697	8,784	8,386	6,608	6,344	3,084	8,004	9,522
日帰温泉利用	71,251	71,627	65,881	64,815	63,764	60,840	54,344	25,684	63,174	65,289
レストラン利用	59,016	59,124	59,342	64,892	66,694	43,790	42,937	19,977	59,277	61,030
売店利用	16,244	16,365	17,486	17,171	20,947	14,945	14,214	4,989	22,687	26,953
トイレ利用（道の駅）	-	-	-	-	-	-	-	-	11,934	13,024
ななかまどの館計	4,853	4,909	3,851	2,396	2,114	5,104	5,315	4,322	4,470	4,787
宿泊者	2,298	2,867	2,389	2,396	2,114	5,104	5,315	4,316	4,439	4,755
公衆浴場利用	2,555	2,042	1,462							
施設利用	-	-	-	-	-	-	-	6	31	32
N P O ふれあいハウス		99	383	498	352	280				
ホワイトビーチ	9,325	6,749	5,880	4,768	3,474	5,340	-	4,082	4,861	4,813
オートキャンプ場	3,881	3,970	4,109	3,487	4,371	4,258	65	1,527	4,719	5,607
未来港公園（キャンプ利用）	597	486	575	613	577	1,241	-	349	503	595
三毛別熊事件復元地	-	-	-	1,939	2,824	2,632	2,866	2,883	3,637	3,429
B & G 海洋センター	4,603	3,537	4,093	3,439	3,252	74	2,679	2,869	3,071	3,474
古代の里（郷土資料館・考古資料館）	4,579	5,382	4,537	4,730	5,279	3,351	1,955	4,099	4,989	4,759
上平ウインドファーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
各イベント入込数	7,500	10,500	10,800	10,500	7,000	0	0	900	6,500	8,000
北海道凧あげ大会	2,500	2,500	2,300	2,500	-	-	-	300	500	1,000
北海道風車まつり	5,000	8,000	8,500	8,000	7,000	-	-	600	6,000	7,000
合 計	190,684	191,916	185,634	188,032	189,034	148,463	130,719	74,765	197,826	211,282
古丹別緑ヶ丘公園桜まつり	1,000	1,000	1,200	1,000	900	-	-	-	800	800
再 合 計	191,684	192,916	186,834	189,032	189,934	148,463	130,719	74,765	198,626	212,082

※三毛別熊事件復元地の入り込み数は、現地来訪者受付簿記載者のみの人数。（平成30年度より記帳簿実施）

※ななかまどの館公衆浴場平成30年2月1日利用休止（平成30年10月1日廃止）に伴い減となる。

第4章 観光振興施策の推進

1 第6次苫前町総合振興計画（令和8年度～令和17年度）

【第3章】 基本構想

●基本目標2 産業の活力を高め、働く場とにぎわいを創出するまち

●政策2-3 観光振興と交流人口の拡大

本町は、豊かな自然環境や食、温泉、歴史・文化など多様な地域資源を有しており、観光は地域経済の活性化や雇用創出に寄与する重要な産業の一つです。一方で、旅行者の価値観や行動様式が多様化する中、単に観光資源を有するだけでは選ばれる地域となりにくく、地域資源の魅力を高め、分かりやすく伝えていく取組が求められています。

北海道総合計画などにおいても、地域資源を活かした体験型・滞在型観光の推進や、交流人口・関係人口の拡大を通じた地域活力の維持・向上が重要な視点として示されています。

本政策では、地域資源の価値を再評価し、自然や暮らし、文化といった本町ならではの魅力を体験として提供する観光コンテンツの充実を図るとともに、滞在時間の延長や再訪につながる観光誘客力の強化を進めます。あわせて、デジタル技術を活用した効果的な情報発信やシティプロモーションを推進し、国内外の多様な層に向けて本町の魅力を発信します。

また、観光施設や案内機能、二次交通などの受入環境の整備や人材育成に取り組む、来訪者の満足度向上と観光消費の拡大を図ります。さらに、観光振興を一過性の誘客にとどめることなく、交流人口を地域と継続的に関わる関係人口へと発展させる視点を重視します。

二地域居住や滞在型交流の促進、地域活動や産業への参画機会の創出を通じて多様な関わり方を提示し、段階的な関係構築を支える受入体制の整備を進めます。あわせて、都市住民や企業、教育機関との連携を通じ、関係人口が地域経済やコミュニティの担い手として活躍できる環境づくりを推進します。

これらの取組を総合的に進めることで、観光を起点とした交流の拡大と地域への関わりの深化を図り、にぎわいと活力が持続するまちづくりを目指します。

【第4章】 基本計画

●政策2-3 観光振興と交流人口の拡大

●施策2-3-1 地域資源の魅力強化による観光誘客力の向上

現状と課題

本町は、豊かな自然環境、食、温泉、歴史・文化など多様な地域資源を有しており、観光は地域経済を支える重要な役割を担っています。しかし、旅行者の価値観や行動様式が多様化する中、単に資源を「有している」だけでは選ばれる観光地となりにくく、地域資源の魅力をどのように高め、分かりやすく伝えていくかが大きな課題となっています。従来の観光は、名所や施設

を巡る滞在時間の短い形態が中心であり、観光消費やリピーター獲得につながりにくい状況が見られます。地域資源を活かした体験型・滞在型コンテンツの造成や、季節性・ストーリー性を意識した魅力づくりが十分に体系化されているとはいえません。また、観光資源の魅力を効果的に発信するための情報発信力やデジタル活用、ブランドイメージの確立についても、さらなる強化が求められています。

加えて、観光客の受入環境については、観光施設や案内機能、二次交通、受入人材の育成など、質の向上が引き続き課題となっています。観光事業者間や農林水産業・商工業との連携も十分とはいえず、地域全体として観光を支え、経済効果を高める体制づくりが求められています。今後は、地域資源の価値を再整理し、その魅力を高めながら、来訪者の満足度向上と地域経済への波及を意識した観光振興を進めていくことが重要です。

- ・ 施策の方針

地域資源の価値を再評価し魅力を高めた体験型・滞在型観光の創出、効果的な情報発信と受入環境整備を一体的に進めることで、観光満足度と再訪意欲の向上を図ります。

【第5章】 実施計画

●政策2-3 観光振興と交流人口の拡大

●施策2-3-1 地域資源の魅力強化による観光誘客力の向上

●主な施策の内容

- ・ 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと創出
- ・ 観光誘客に向けた効果的な情報発信とプロモーションの推進
- ・ 地域特色を活かした観光イベント等の充実
- ・ 観光施設・受入環境の整備と担い手育成の推進

- ・ 関連する行政計画

- ・ 苫前町観光ビジョン

- ・ 施策に係る取組（主な事務事業など）

- ・ 苫前町観光ビジョンの推進
- ・ 公認キャラクター「くまだとまお」の活用
- ・ 苫前町風車まつり実行委員会補助
- ・ 苫前町観光協会補助
- ・ 観光施設の管理運営
- ・ 新日本海地域交流センターの指定管理による運営
- ・ ななかまどの館の指定管理による運営

2 観光施設の取り組み

(1) 新日本海地域交流センター(とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」)

施設整備においては、宿泊室のシングル対応における一部個室化、レストランでは椅子・テーブルの入替にて高齢者対応の仕様に一新、老朽化した温泉設備も更新、防災施設の機能として非常用電源装置の拡充も行い、災害時にも対応可能な施設となっています。

また、道の駅機能の拡充として直売所の設置とともに、24時間トイレ、障がい者・妊婦向け屋根付き駐車場、授乳室など新たな子育て支援環境を整え、併せて、留萌開発建設部のご協力により、「道の駅情報提供システム」のバージョンアップ、紙おむつや液体ミルクの子育て応援自動販売機の設置をしました。

また、道の駅と連携した地元農産物や海産物を活用した特産品販売（グルメフェア）や食事の提供、イベント開催、ファーストフード開発、他の施設との連携やコラボによるセット割など、多様化する利用客への情報発信を充実させ、通過型観光客から滞在型観光客に繋がる仕掛けづくりを推進します。

(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

ホワイトビーチ管理棟及びさわやかトイレについては、建設から30年経過し、老朽化が著しいことから、令和8～9年度にかけて改修工事を計画し、利用者の利便性やサービス向上を図ることとしています。

近年、各地において猛暑や少子高齢化、レジャーの多様化により海水浴客離れが進んでいます。より集客を図るためには、近隣観光施設との連携によるセット割や限定商品の開発、風力発電絶景スポット・夕陽絶景スポット化や、フォトスポット整備、スタンプラリー等の企画やSNSによる投稿発信により、海だけではない、プラスアルファの体験滞在拠点への転換を推進します。

(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

オートキャンプ場管理棟及びトイレ棟については、建設から30年経過し、施設・設備の老朽化が著しいことから、令和8～9年度にかけて改修工事を実施することとしています。

オートキャンプ場については、令和7年度より利用者の利便性を図るため、LINE予約システムを導入しています。比較的利用客が多い施設ですが、更なる利用者の集客を図るため、リピーターや新規利用客の獲得のためのイベント開催や、近隣施設である「とままえ温泉ふわっと」と連携し、BBQ等の地元食材の販売、手ぶらキャンププラン、セット割、強味である日本海の夕陽や星空、風力発電の景観を活かしながら、ブランド化を推進します。

(4) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

未来港公園トイレ棟については、建設から20年経過し老朽化及び和式トイレなどの利用者ニーズに対応するため、令和8～9年度にかけて改修工事を実施するこ

ととしています。

海水浴場（開設）期間におけるキャンプ利用ニーズや、オートキャンプ場満員時の代替施設としてのキャンプ利用受入を継続するとともに、苫前町風車まつりなど大型イベント開催を可能とする会場として、多目的な活用の推進を図っていくこととします。

（５）ななかまどの館

ななかまどの館については、建設から３５年以上経過しており、老朽化が著しいことから、大規模改修工事を計画しています。

令和８年度～９年度にかけて、下水道接続・水回り（トイレ・お風呂・シャワー）の改修・客室エアコン整備、屋根・外壁・内装クロス等の改修を行うこととしており、利用者の利便性やサービス向上を図ることとしています。

さらに、和室の洋室化や照明のLED化を進めることで、利用環境の快適性と機能性を高め、仕事と観光の双方のニーズに対応できる「滞在拠点施設」としての活用を推進します。

（６）三毛別震事件復元地

三毛別震事件復元跡地の入り込み者数は年間約３，０００人が見込まれ、苫前町の開拓の歴史の伝承と犠牲となった方々への慰霊と感謝の気持ちを後生に伝える施設として、今後も復元住居及び震モニュメント等の維持管理を図ります。

（７）苫前町郷土資料館及び考古資料館

苫前町有形文化財にも指定されている大型の木櫃「修羅」や「須恵器」、苫前町の宝に指定されている日本最大級の震の剥製「北海太郎」など、貴重な展示物が常設されており、北海道有形文化財に指定されている木造十一面観音立像の常設展示が望まれます。

木造十一面観音立像は、役場にて専用ケースに収蔵されているものの、展示環境の確保の課題から常設展は行われていない状況にあります。４年に１度役場ロビーにて展示会を開催しています。

３ 観光資源の取り組み

（１）上平グリーンヒルウインドファーム

本町での滞在型観光の観光資源としての活用を図るため、立ち入り制限区域や安全表示を守りつつ、放牧牛や自然環境への配慮したうえでの観光ルートマップの制作を検討いたします。

（２）各種イベントの開催

苫前町風車まつりは、今後も継続開催が望まれるとともに、特産品等の販売においては町内出店の他、食のテーマを設けた町外出店者の招聘を図るなど、新たな観

光ニーズに対応した魅力あるイベント作りを目指すものであります。

また、地域に根ざした「古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り」や苫前・古丹別両地区で行われる「ふるさと祭り」は、地域住民及びふるさと苫前を再確認できるイベントとして、継続開催を支援いたします。

苫前町凧あげ大会は、苫前町の風物詩として町内外に浸透しているものの天候に大きく左右される状況にありますが、苫前町の風土を活かしたイベントであり、今後も観光事業としての開催支援を行うものとしたします。

(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売

本町の豊富な農水産物などを資源とした、多様なお土産品の開発が望まれているところであり、苫前ブランド・6次産業化チャレンジ支援事業（助成金）の活用も含め、苫前産農水産物のブランド化や地域特産物の開発支援に努めるとともに、道内都市部における特産品PRとして観光協会を主体とした、「北海道のひだり上るもいフェア（札幌市）」や「北の恵みあさひかわ食べマルシェ（旭川市）」、「冬のJP01まつり in チカホ（札幌市）」などへの出店を行い、商工会や各企業等の協力・連携を図り得ながら、特産品PRと販路拡大支援を行います。

(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」

「くまだとまお」のPRを図ることで、苫前町のイメージアップを図る相乗効果が見込まれるため、活動展開を拡大するための人材育成及び人材確保を推進し、様々なイベントへの出動体制の強化を目指します。

さらに「くまだとまお」のキャラクターグッズ開発及び販売の推進とSNSによるPRを図ることで、より苫前町の名前とイメージアップを促進するとともに、子ども・親子をターゲットとしたグッズ製作や町内の観光資源とコラボしたグッズ製作などを検討し、イメージキャラクターの有効活用を進めていく必要があります。

また、「くまだとまお」を活用した認定特産品パッケージ等への活用を検討するなど、様々な活用方法を促進します。

(5) 観光客誘導看板

役場前巖（ひぐま）モニュメントは、特にライダー観光者の通過ポイントとして認知されており、定期的な点検補修を行うとともに、苫前町のシンボルモニュメントとして、今後も維持管理を行います。

とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ駐車場観光案内看板は、町内観光場所の唯一の案内として、その内容更新を検討いたします。

新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと）大型看板は、更新時には、道の駅としてのPR効果やインバウンド対策における外国語表記も含め、更新を検討いたします。

三毛別巖事件復元跡地の入り込み者への誘導看板は、国道239号線の古丹別地点から約19kmと山奥地への誘導として、ベアロードとしての誘導看板は必要であり、定期的な維持補修及び更新を行うものとしたします。

4 観光PR情報提供

観光情報の提供においては、町のホームページにて各観光施設の紹介や各イベント時の広告、特産品販売店の紹介など掲載しているが、十分な情報提供とは言いづらく、定期的な掲載内容の見直しが必要であります。インバウンド対策も含め、定期的な情報更新やSNSによるリアルタイムでの情報発信を検討していく必要があります。

また、パンフレット作成による情報提供では、苫前町観光協会にて、「苫前町観光ガイドブック」、「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場施設紹介パンフレット」、「三毛別熊事件復元地紹介パンフレット」を作成しており、必要部数の確保並びに定期的な情報更新を行うものとしたします。

なお、北海道観光振興機構や道の駅情報サイト等のインターネットサイトへのイベント情報提供や施設案内情報の掲載について、随時、最新情報となるよう更新することで本町の魅力が伝わる創意工夫を継続するとともに、全国観光雑誌における観光情報の発信や、留萌管内各市町村と連携した情報発信により、広告宣伝力の強化を図るものとしたします。

5 留萌管内における観光事業連携

本町の観光客の誘客には、留萌管内各市町村との連携が重要であり、留萌観光連盟の取り組むWEBサイト「るもい食楽歩」への観光情報提供など留萌観光連盟事業への参画を図るとともに、留萌振興局が主催する各種観光PRプロモーション事業等への参加を継続いたします。

6 観光プロモーションの取り組みについて

本町の観光振興を図るためには、これまでの「通過型観光」から脱却し、本町の豊かな自然風土を活かした体験型観光を推進することが重要です。体験を通じて観光交流人口の増加を図り、滞在型観光へと転換することで、新たな観光産業の創出・育成につなげていく必要があります。

滞在型観光を推進するためには、既存の観光施設や観光資源を有効に活用しながら、「苫前ならではの」食体験をはじめ、本町の基幹産業である農業や漁業、さらには地域の生活風土を体感できる体験メニューを充実させることが求められます。人と人との交流を育む中で特産品の消費拡大を図り、観光産業の裾野を広げるとともに、安定したサービス提供体制を整備していくことが重要です。

一方で、本町単独のプロモーションには限界があることから、当面は留萌管内における事業者間連携を強化し、広域観光ルートの設定や各種プロモーションへの参画を進めます。こうした広域的な取り組みを通じて、本町独自の体験メニューの確立と交流人口のさらなる増加を目指します。

7 観光推進体制（町内各産業団体との連携含む）について

本町の観光推進体制は、各種イベントの運営において、風車まつりや凧あげ大会を地域住民の協働参画による実行委員会体制で実施し、行政担当部署がその事務局を担っている状況にあります。これらの事業は、官民協働による運営があつてこそ成り立

つものであり、今後も同様の体制を維持していく必要があります。

また、観光協会については、町内の各産業団体や地域組織の協力のもと、行政担当部署が事務局を担う体制となっています。主な活動は、観光パンフレットの作成・配布による観光PR、ご当地キャラクター「くまだとまお」の活用、札幌や旭川における特産品PRなどであり、その財源は全額町の補助金で賄われています。

一方で、公的機関としての現行体制では収益事業の展開が難しく、活動範囲に一定の制約があるのが現状です。今後は、多様化・高度化する観光ニーズに柔軟に対応し、地域産業の振興にもつなげていくため、より弾力的な事業展開が可能となる組織体制の構築について検討する必要があります。

現段階における観光協会の役割は、観光PRおよび特産品PRの機会を確保することにより、観光産業の創出と育成を支援することにあります。あわせて、地場製品の流通促進や販路拡大を図り、「稼げる観光」を実現することで交流人口の増加に寄与し、移住・定住のきっかけづくりにつなげていくものとします。

資 料 編

1 観光施設の概要 (R8. 3末)

(1) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

- センターハウス ～ 受付、管理人室、コインランドリー(3)、シャワー(3)
男子トイレ (小4、洋式1、和式3)、女子トイレ (洋式1、和式3)、身障者用トイレ (洋式1)
- サイト ～ オートキャンプサイトA 21区画 (20A電源・炊事ユニット)
オートキャンプサイトB 50区画 (全面芝生・車両乗入可)
フリーテントサイト 10区画 (バイク・自転車・徒歩専用)
- 炊事棟 ～ 1棟 (屋根付・夜間照明有)
- トイレ棟 (オートキャンプサイトA内)
～ 1棟 (男子トイレ：小2・和式2、女子トイレ：和式2)

(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

- 管理棟 ～ 管理人室、ココカピウ (飲食喫茶)、備品庫 (3室)
- 売店棟 ～ 4棟 (売店2、海水浴管理1、資材物置、トイレ和式1)
- シャワー室 ～ 男女別各4箇所
- 白砂場 ～ 1000m³
- 炊事場 ～ 1箇所
- さわやかトイレ ～ 男子トイレ (小4、洋式1、和式2)、
女子トイレ (洋式1、和式3)、
子供用トイレ (小1、和式1)
身障用トイレ (洋1)

(3) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

- 管理棟 ～ 管理人室、電気室、炊事場、フリーデッキ
男子トイレ (小5・洋式1・和式1)
女子トイレ (洋式2、和式4)
身障者用トイレ (洋1)
- 多目的広場 ～ 芝生10, 575m²、庭園灯17基
- ビーチバレー広場 ～ 砂場バレーコート1面分
- 親水広場 ～ 3, 630m²
- 駐車場 ～ 乗用車196台・バス5台

(4) 三毛別震事件復元地

- 復元住居地 ～ 復元住居1棟 (震モニュメント付き)、慰霊碑、熊穴、棧橋、
釣鐘、説明看板、小熊像

2 宿泊施設の概要

(1) 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）の施設概要

- 客室数 ～ 特別室(ツイン) 1室、和室(ロフト付) 3室、和室3室、洋室(ラージツイン) 4室、洋室(ツイン) 2室
キャビン(シングル) 12室 計25室
- 浴場 ～ 男女別・露天風呂付・サウナ・リラックスルーム・休憩室あり
ナトリウム-塩化物強塩泉(高張性中性高温泉)
- レストラン ～ テーブル席・和室宴会場・ラウンジあり
- 研修設備 ～ 研修室4(洋室タイプ2、和室タイプ2)、会議室1
- 多目的ホール ～ 250人収用可能
- トイレ～ ～ 男子トイレ(小3、洋式1、和式1)、女子トイレ(洋式2、和式1)、身障用トイレ(1)
- 駐車場 ～ 大型車10台、小型車93台、身障者用6台
EV充電設備2台

施設利用者状況

施設名	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
とままえ温泉ふわっと計	155,346	156,284	151,406	155,662	159,791	126,183	117,839	53,734	165,076	175,818
宿泊者	8,835	9,168	8,697	8,784	8,386	6,608	6,344	3,084	8,004	9,522
日帰温泉利用	71,251	71,627	65,881	64,815	63,764	60,840	54,344	25,684	63,174	65,289
レストラン利用	59,016	59,124	59,342	64,892	66,694	43,790	42,937	19,977	59,277	61,030
売店利用	16,244	16,365	17,486	17,171	20,947	14,945	14,214	4,989	22,687	26,953
トイレ利用(道の駅)	-	-	-	-	-	-	-	-	11,934	13,024

(2) ななかまどの館の施設概要

- 客室数 ～ 和室4室、洋室(シングル) 15室、洋室(ツイン) 1室
- 浴場 ～ 男女別
- 食事 ～ テーブル席・和室宴会場
- 会議室 ～ 大広間(35畳) 1室
研修室 4室
- トイレ ～ 1階(男子:小3、洋式2、女子:洋式3)
2階(男子:小3、洋式2、女子:洋式2)
- レストラン～宿泊者のみ

施設利用者状況

施設名	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
ななかまどの館計	4,853	4,909	3,851	2,396	2,114	5,104	5,315	4,322	4,470	4,787
宿泊者	2,298	2,867	2,389	2,396	2,114	5,104	5,315	4,316	4,439	4,755
公衆浴場利用	2,555	2,042	1,462	-	-	-	-	-	-	-
施設利用	-	-	-	-	-	-	-	6	31	32

※公衆浴場は平成30年2月1日より利用休止(平成30年10月1日廃止)

(3) 民間宿泊施設の概要

・民宿30ノット 洋室9室(シングル1室、1~2名5室、2名2室、4名1室)

3 観光資源の概要

(1) 上平グリーンヒルウインドファーム

- 事業主体 合同会社ユーラスエナジー苫前
- 発電設備 4, 200kW風力発電機 5基(アメリカ GE社製)
- 事業主体 株式会社 ジェイウインド
- 発電設備 4, 300kW風力発電機 8基(スペイン SGR社製)
- 総発電出力 5万600kW
- 対象面積 300ha(町営上平共同利用模範牧場)

(2) 各種イベントの開催状況

○苫前町風車まつり(第20回までは北海道風車まつり)

開催回数 22回(初回:平成16年)

開催内容 以下のとおり

実施主体 苫前町風車まつり実行委員会

実施年度	ステージショー					エビ籠 オーナー	その他		
		歌謡音楽ステージ			子供向け			YOSAKOI	
平成16年度	第1回	城之内 早 苗	コロムビア ローズ	木村前幸(伝統音楽)	デカレンジャー	Y O S A K O I			
平成17年度	第2回	ものまね(ダンシング谷村・ミラクルひかる・吉田みやあ・だいすけ)			マジレンジャー				
平成18年度	第3回	佳 山 明 生	SHINYA	ビバーチェ	ボウケンジャー				
平成19年度	第4回	五十嵐浩晃・香澄・三ツ橋けんじ			ゲキレンジャー				
平成20年度	第5回	香 澄	留萌陸上自衛隊音楽隊						
平成21年度	第6回	JUNKO×NARIKO×AYA	パプファミリー(パフォーマンス)					第1回	
平成22年度	第7回	北 見 恭 子	竹内獅子丸(三味線)					第2回	
平成23年度	第8回	林 あさ美	くろまる	なでしこシスターズ				第3回	
平成24年度	第9回	角 川 博	Rigell Farthest	歌麿呂(お笑い)				第4回	
平成25年度	第10回	鳥 羽 一 郎	ラフ・チケット(漫才)	ヒロ青山(ものまね)				第5回	
平成26年度	第11回	大 月 みやこ	ワンダービーナス	フルーティ				第6回	
平成27年度	第12回	中 村 美律子	Nene&Waka					第7回	
平成28年度	第13回	細 川 たかし	Nene&Waka					第8回	
平成29年度	第14回	山 川 豊	Nene&Waka	亙 哲兵(ものまね)	ご当地キャラクター			第9回	
平成30年度	第15回	新 沼 健 治	杜 このみ		ご当地キャラクター			第10回	
令和元年度	第16回	田 川 寿 美	浅 井 未 歩	中止(THEご主人様)	ご当地キャラクター			第11回	
令和2~4年度	第17~19回	中止(香西かおり次年度へ順延)						中止	
令和5年度	第20回	香 西 かおり	ヒロ青山(ものまね)	GRACE(司会兼:ふわっと提供)	ご当地キャラクター			中止	
令和6年度	第21回	水 森 かおり	CHAPPY(ものまね)	GRACE(司会兼:ふわっと提供)				中止	
令和7年度	第22回	川 中 美 幸	藤川なおみ(ものまね)	GRACE(司会兼:ふわっと提供)		中止			

○古丹別緑ヶ丘公園さくらまつり

開催回数 51回（初回：昭和46年度）
開催内容 歌謡ショー・カラオケ大会・パフォーマンスショー等
その他 販売店出店・コンロ無償提供
実施主体 古丹別緑ヶ丘公園桜祭り実行委員会

○苫前・古丹別ふるさと祭り

開催回数 苫前40回、古丹別46回
開催内容 盆踊り・ゲーム大会・カラオケ・パフォーマンスショー・抽選会等
その他 販売店出店
実施主体 苫前ふるさとまつり実行委員会／古丹別ふるさとまつり実行委員会

○苫前町凧あげ大会

開催回数 苫前町凧あげ大会 51回（初回：昭和48年度～）
北海道凧あげ大会 27回（初回：平成4年度 至：令和元年度）
開催内容 部門別凧あげ競技及び表彰 等
その他 販売店出店
実施主体 苫前町凧あげ大会実行委員会

(3) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」

留萌管内の他市町村で「ご当地キャラ」が誕生する中で、苫前町でも町をイメージでき、町を盛り上げることができる、かわいらしい「ゆるキャラ」を誕生させようと、平成28年に町内外へキャラクターと名前の募集を図り、231件の応募の中から選定委員会での24作品を選定し、町民による人気投票を行い、その結果、「くまだ とまお」のキャラクターデザインと名前が選ばれ、平成29年1月にて苫前町イメージキャラクターとして誕生しました。



(4) 観光客誘導看板（写真）

- ①役場前熊（ひぐま）モニュメント ②国道232・239号線上平交差点 ③とままえ温泉ふわっと大型看板



④ホワイトビーチ観光案内



⑤ベアロード看板 (残り15km)



⑥ベアロード看板 (残り10km)



⑦ベアロード看板 (残り5km)



⑧ベアロード看板 (残り2km)

